平成１３年度　施　策　別　取　組　方　向

部局名：農林水産商工部、科学技術振興センター

施策番号	施　　策　　名
４１３	戦略的なプロジェクトの推進と新技術の開発

【２０１０年度の目標】
　三重県の重要な農林水産物や新しい特産物の活発な生産が行われ、輸入品や他県産に負けない、高品質で求めやすい価格の農林水産物が「三重の顔」として全国に提供されています。

項　　目 （主要品目）	基準年度の状況	1999 年度実績	2001 年度の目標 (2010 年度の目標)
早場米（全国早場米市場での流通量シェア）	8.7% （西日本第３位）	１１．２８％	10 %　(20%) （西日本第１位）
三重さつき（全国生産量シェア）	39.5%（1994 年度） （全国第１位）	——	39.5 %　(40%) （全国第１位）
高級和牛肉(東京市場での取扱量シェア）	9.0%（1994 年度）	１１．０％	18 %　(40%)
銘柄茶としての販売割合（県内産荒茶出荷量に対する伊勢茶割合）	10.0%（1994 年度）	１１．６％	15 %　(30%)
県産材（すぎ、ひのき）（県内需要量に対するシェア	44.0%（1994 年度）	４８．０％ （見込み）	50 %　(70%)
ひのき（全国生産量シェア）	8.1%（全国第３位） （1994 年度）	８．６％ （見込み）	9 %　(15%) （全国第１位）
天然まだい（太平洋中区に占める生産量シェア）	33.7%（1994 年度）	３８．２％	44 %　(50%)
天然ひらめ（太平洋中区に占める生産量シェア）	10.1%（1994 年度）	８．７％	13.5 %　(15%)
真珠（全国生産量シェア）	20.1%（全国第３位） （1994 年度）	32.6 %（概数）	21.7 %　(25%) （全国第２位）
松阪木材ｺﾝﾋﾞﾅｰﾄを核とした木材流通ネットワークづくり	０か所	０か所	１か所　(同　左)
海洋牧場整備	１か所	１か所	１か所　（３か所）

新品種の開発、新技術の開発

2001、2010 年度の目標	1999 年度実績
水稲の極早生品種の開発	中生新品種候補（三重１１号、１２号）の生産力検定
優良真珠母貝の開発	白色系真珠貝第１系統及び第２系統の保存と第１系統の改良、真珠の巻きの改良効果の検討
肉用 肉用牛雌雄産み分け実用化技術開発	卵子成熟率を３４%から６５%以上に向上 クローン胚を１個移植したが不受胎
伊勢えび、まはた、くえ等高級魚大量増殖技術開発	まはた稚魚 36,000 尾、くえ稚魚 47,000 尾の生産に成功し、伊勢エビ小規模生産技術を確立した
県産材新用途開発	竹と木材の複合材の開発、鋼材木材の複合構造材製造方法の改良

１　平成11年度の取組

(1)平成11年度の取組概要とその成果

　三重県の重要な農林水産物や新しい特産物の活発な生産が行われるよう、基盤整備を促進するとともに、新品種や新技術の開発などに取組んできました。また、市場シェアの拡大が図られるよう、三重の顔としての県特産物の全国への情報発信に取組んできました。

・「みえのえみ」（本県開発水稲新品種）の流通市場へのﾃﾞﾋﾞｭｰ
・「サンチーゴ」（本県開発いちご新品種）の宣伝活動の展開

・「なばな」、「モロヘイヤ」について使用農薬の残留量を明らかにし、宣伝活動の展開（なばなの生産量対前年比 120 %）
・松阪木材コンビナートの整備推進
・白色真珠を産する新品種アコヤ貝の遺伝系統保存等
・魚類養殖対象種のｸｴ･ﾏﾊﾀ稚魚の量産試験に成功

⑵平成11年度の取組に対する問題点

茶園整備や省力機械の導入促進と伊勢茶の最終商品化率の向上及び認証マーク（Ｅマーク）の普及及び商品群の育成が必要です。

木材コンビナートの施設整備の進捗に合わせた資金計画、原木調達と製品販売体制等の総合的な整備が必要です。

白色系真珠の色や巻きについての生産試験や耐病性向上の技術検討が必要です。

2　平成12年度の取組と成果見込み

伊勢茶の高性能摘採機刈り取り面積 400ha、銘柄茶としての販売割合 14%を目指し、13 年度開催の全国お茶まつりに向け、関係者の意識高揚を図ります。

生産目標面積（なばな 250ha、ﾓﾛﾍｲﾔ 22ha、いちご新品種サンチーゴ６ ha）の達成と「みえのえみ」のﾌﾞﾗﾝﾄﾞ化、「伊勢うどん」、「清酒」のＥマーク食品の認証と新たな品目の認証規準を作ります。

木材コンビナートの原木安定供給体制と販売戦略を確立し、平成 13 年４月の一部操業を目指します。

白色系真珠を普及定着させるため、系統保存とへい死対策についての研究と改良を続けます。

水環境に優しい「三重の無洗米」の普及体制について、総合企画局・環境部・農林水産商工部等の関係部局及び関係団体等において協議し、今後の推進方向の確立を図ります。

優良和牛のクローンの誕生を目指すとともに、産学官の情報交換、共同研究を推進し、県産材の開発・実用化を図り、新たな特許出願を目指します。

3　平成13年度以降に向けての取組方向

農林水産商工部）

県内産品を「三重の顔」として全国に情報発信できるよう、戦略的農林水産物の低コスト化や高付加価値化、革新的技術の開発を促進します。

特に、平成 13 年度において開催する全国お茶まつりを活用し、伊勢茶が「静岡茶」「宇治茶」に並ぶ銘柄として位置付けられるよう情報発信を行います。

また、三重県産の木材が産地間競争に打ち勝つよう、松阪木材コンビナートを核とする木材流通ネットワークの構築を促進します。

さらに、白色系真珠の普及に向けた体制整備や感染症によるへい死対策、品質向上対策など生産技術開発・指導を行います。

「なばな」、「モロヘイヤ」、「サンチーゴ」、「みえのえみ」を市町村、生産者団体等と連携して「三重の顔」とするべく情報発信を強化します。

水環境に優しいことを情報発信しつつ、関係部局協働体制の中で「三重の無洗米」の本格的な普及推進を図ります。

科学技術振興センター）

松阪牛等の優良素牛確保のため、クローン技術を組み入れた肉用牛雌雄産み分けの実用化技術を開発するとともに、本県の気候に適した良質・良食味で安定生産できる水稲新品種の開発に取組み、県産米の振興と消費拡大を支援します。

県産材の需要拡大のため、新技術、新製品等の実用化、民間への技術移転を積極的に図るとともに、松阪コンビナートを核とした木材関連産業への支援を行います。

クエ・マハタの種苗量産安定化施設については、平成 13 年度設計、平成 14 年度整備とし、平成 12 年度に行う技術開発結果を踏まえ、基本構想をまとめます。

また、種苗量産技術が確定すれば速やかに技術移転へと実用化を図っていく必要があります。